

第14回 腹証奇覧・奇覧翼を読む

大承気湯他

診方 § 四 診

峯 尚志

今回学ぶ処方

(○は文礼の●は叔虎の解説)

○●大承気湯

●厚朴大黄湯

○厚朴三物湯

●厚朴七物湯

○●調胃承気湯

○○大黄甘草湯

○大黄硝石湯

○橘皮大黄朴硝湯

○鶴丸

大黄



雅黄系「雅黄（がおう）」（四川省産）

センノシド含量高い



錦紋系「西寧（せいねい）大黄」（青海省産）

センノシド低めだがその他の成分多い

大黃は刺激性の下剤である

- センノシドA、B→セニジン→rhein・アンスロン
↑βグルコシダーゼ

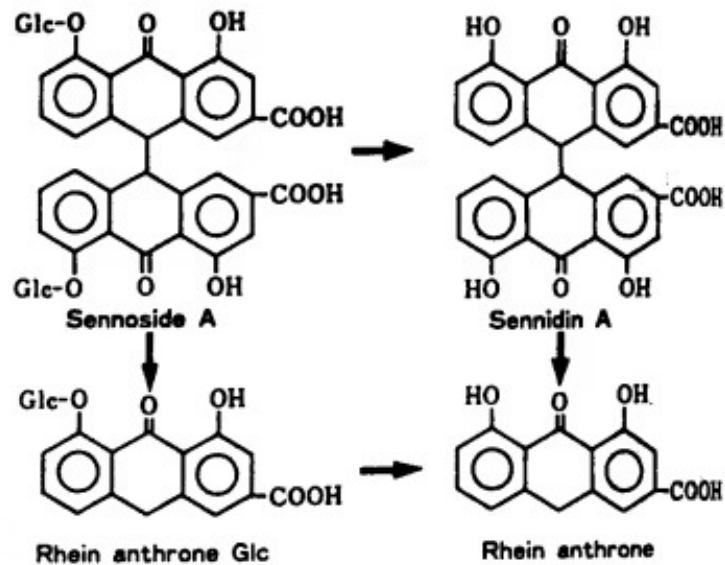


図1 センノサイドAの腸内代謝経路



大黃は単なる下剤ではない

大黃の多彩な作用



狂を治す

瀉心作用

大黄一味の將軍湯

統合失調症のような妄想を治す

方輿輓

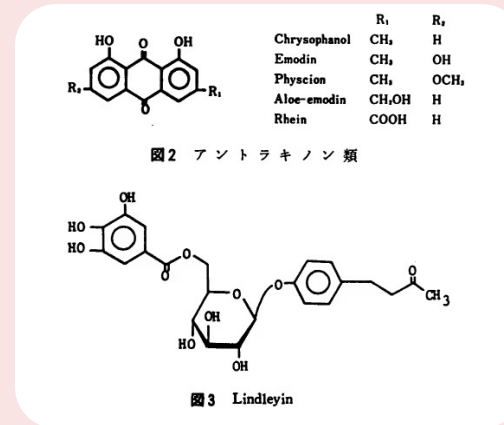
有持桂里(1758-1835)



大黃は抗菌剤である

アントラキノン類に赤痢菌、チフス菌、コレラ菌、真菌などに対する抗菌活性

アロエエモジンは細菌の核酸とタンパク合成を阻害する



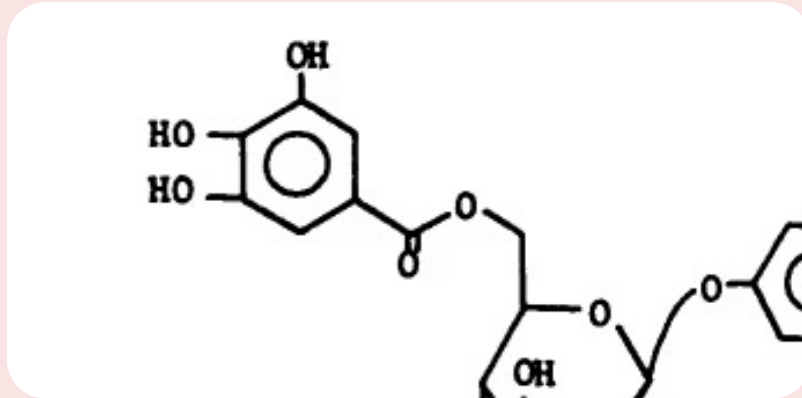
胆道系の細菌に対する抗菌作用

Bacteroides fragilisは嫌気性菌で正常では空調以下に存在するが
腸閉塞や腸蠕動が低下した宿便のある状態では十二指腸あたりまで生息域が広がる

この細菌は抱合型の胆汁酸を遊離型に変え粘膜の刺激作用によって胆道系の炎症を引き起こす
大黃はこの細菌に対して強い抗菌作用を持つ

消炎作用

リンドレインにはアスピリンに匹敵する抗炎症作用がある



BUN低下作用腎不全改善作用

ラタンニンに体タンパク質分解の抑制作用

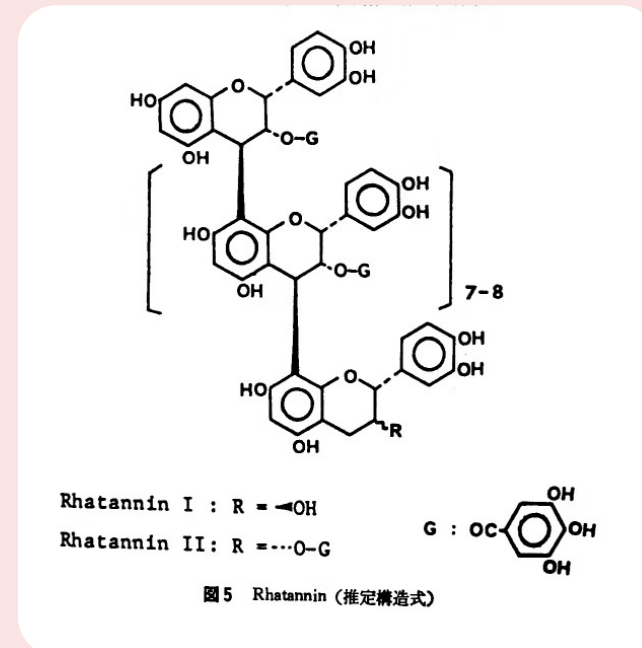


図5 Rhatannin (推定構造式)

慢性便秘と大黃

刺激性下剤としての腹痛を緩和する

刺激性下剤の腹痛を緩和したい

腹痛と言えば芍薬？甘草？

粘膜を保護し胃を和する甘草をチョイスする

グリセリン浣腸の副作用

粘膜が傷ついているとき、グリセリンが血中に入り血尿や腎不全を引き起こす

大黃甘草湯の誕生

大黃甘草湯は腸だけでなく胃にも効く

調胃作用

嘔気に効く？

胃の降濁作用を助ける

○大黃甘草湯

図の如く、腹満すといえども
あえて実せず、大便閉のもの
論にいわく、

食已んですなわち吐するもの大いに効あり

克按ずるに、本文にいう

食已んですなわち吐するもの、

所謂反胃膈噎この証まもあり

我が門これを用いて二、三子効を得。

学者用いて以て二、三効を得、

学者用いてもって効を知るべし

あるいは曰く

秘閉急迫これまた腹診考うべしなり。

図
ノ
如
ク
・
腹
満
ス
ト
イ
ヘ
ド
モ
・
ア
ヘ
テ
實
セ
ズ
・
大
便
閉



南風を入れたかったら北の窓 を開けなさい

(温疫論)

○大黃甘草湯

薫りのよい南風をとりいれたいならば南の窓を開けるのではなく、北窓も開けないと風は入ってこない。(温疫論)

胃が塞がって吐いているときは、吐き気止めを使うのではなく、
便通をつけてやらなくてはならない。

食べ終わってすぐに吐くのは宿食で胃実大黃甘草湯で下す
食べ終わってしばらくして吐くのは裏寒人參湯の適応



大黄甘草湯の口訣

- 「小児の吐乳、不大便はよろしくこれを服すべし」
(勿誤薬室方函口訣、浅田宗伯)
- 「妊娠悪阻で便秘するもの、胃腸に熱があつて嘔吐するものに効果がある」
(餐英館療治雑話、和田東郭)
- 「大黄甘草湯、嘔吐して不大便する。この方を丸として持ちう」
(校正方輿輓、有持桂里)

焦樹徳先生は本気だ

大黄に甘草を配合すると止吐作用として働く。
湯液を飲むと必ず吐くという者には、その湯液を
飲む前に、あらかじめ準備しておいた大黄甘草湯
を小さなカップ一杯だけ飲んでもらって、湯液を
飲むと吐かずに飲める。

『焦樹徳、生薬活用の秘訣』より

大黄甘草湯は注腸にも適する



5才男児

- 昨日より、腹痛と三、四回の下痢あり、今朝も朝から下痢があり血が混じっていたと報告する、ぐったりしている。体温は37度2分、堺市で0-157の流行が報道（H8年）されているので心配。
- 大黄甘草湯2.5gを微温湯に溶いて注腸する。するとまもなく、ドロツとした便が出た。血便ではなかった。その後すぐに元気になりそのまま治ってしまった。

調胃作用のある大黄甘草湯に芒硝を加えると

腸胃承気湯

太陽病三日

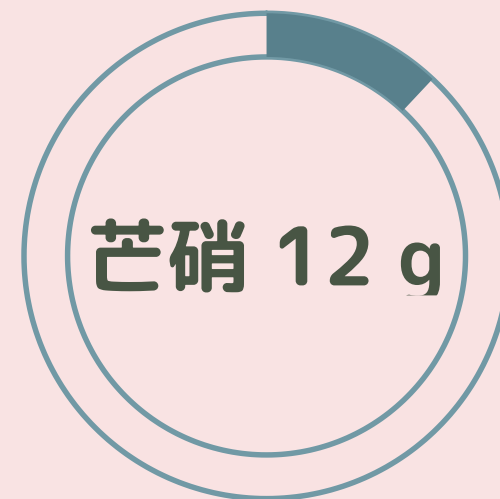
発汗不解、蒸蒸発熱者、
属胃也、調胃承気湯主之

●腸胃承気湯

図のごとく、腹微満して、
心下より臍上までの間、
之れを按すに硬くして
微痛を覚えるものを
調胃承気湯の腹証とする



調胃承氣湯





鶴丸

大黃、芒硝、甘草、人參、黃連

この一方は、先師
鶴泰栄先生よりつたうる所なり

○鶴丸

図の如く、胸脇痞塞し、
腹中に血塊ありて之を按せば痛み、
あるいは心下痞硬し心煩急迫して、
時々胸腹痛み
あるいは上がりて心を衝き
食すること能わず
あるいは大便の通じがたきもの、
この方の主るところなり。

**腸胃承気湯証で脾胃の寒熱錯雜し心
下痞鞭のあるもの**



黄疸の処方

大黄消石湯

大黄、黄柏、硝石各四兩
山梔子十五枚
消石：硝酸カリウム

黄疸に大黄、山梔子、黄柏、硝石

○大黃消石湯

図の如く、
腹満して心下より臍上までこれを押すに実す
その顔色身体ことごとく黄色を發し、
時々自汗出でて大便秘し
もしくは硬きもの
いわゆる黄疸病なるものは是れなり



熱病を治すには峻下が必要だ

裏に熱が及んで便の水分が奪われる

陽明病。脉遅、汗出でるといっても惡寒せざる、其身必ず重く、短氣腹滿して喘し、潮熱あるは、此れ外解さんと欲す、裏を攻めるべき也。
手足濇然として汗出する者、此れ大便已に鞭なり、大承氣湯之を主る。

大承氣湯の目標（陽明腑実証）

- 潮熱（夕方から夜にかけて潮が満ちるような高熱）
- 惡寒なくただただ熱い
- 手足には絶えず汗がじわじわと出る
- 息切れ、呼吸促迫
- 心下痞鞭、腹滿痛
- 臍周囲腹痛
- 大便燥結
- 心煩懊惱、譫語、意識障害
- 脈沈実大
- 舌 紅色 乾燥 黄色苔あるいは黒色芒刺



大承氣湯

大黃、芒硝、厚朴、枳實

大承気湯の症例 34才女性

- 主訴) 発熱、咽喉部痛
- 現病歴) 二日前から38度台の発熱。咽喉部痛を自覚する。近医にて抗生物質、解熱剤をもらうも、服用時のみ少し楽になるが、午後になると熱が高くなり、少しも症状が改善しない。同日午後8時、当院を受診する。
- 現症) 身長159cm、体重71kgと肥満。肌は色は白いが、高熱のためか頬がりんごのように赤く染まっている。脈は沈、弦で有力。高熱の割には速い脈ではない。舌は紅色で黄色の苔を中等度認める。腹部は全体に堅く、上腹部、下腹部ともに緊満している。

経過

体温計で熱をはかると39.5度ある。本人は悪寒はなく、多々熱いだけだという。

扁桃は赤く腫大し白苔がべっとりとついている。汗は全体にしっとりとかいている。

呼吸は浅く、あえぐようにふうふういっている。

大便是ここ1週間出ていない。

よくきいてみると悪寒や熱感はまだ1週間以上前からだという。

以上の所見より大承気湯エキス7.5gを二日分処方、当日分の7.5gは一度に飲むように指導し、

もし便が出ないようならさらに出るまで大承気湯を服用するように指導した。

翌日来院、熱は平熱に戻り、咽喉部痛も改善している。顔面の紅潮もなくなっている。帰宅し服薬後すぐに多量の排便があり、一瞬のうちに熱が下がってしまったと報告している。その後3日間抗生物質を内服して治癒した。

日常診療における大承気湯症は小児でよくみられる

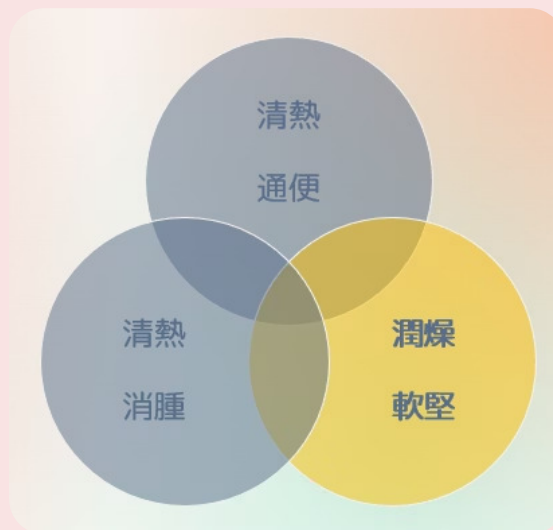
- 5才男児、3日前から39度台の発熱が続いており、真っ赤な顔をして、お腹が張って痛い、ご飯は食べたくないといって、ぐったりしている。お水もあまり飲んでくれない。
- ここ四、五日便が出ていないという。腹部単純レントゲンでは便の貯留と、腸管ガスを顕著に認める。グリセリン浣腸20m lを施行。施行後すぐに大量の便が出た。そのあとすぐに体温は36.8度に解熱、腹痛の訴えはなくなり、元気いっぱい待合室を走り回っている。

熱病でカチカチに固まった便を刺激だけで出すのは無理がある

芒硝の登場

芒硝の基原と薬能

- 天然の硫酸ナトリウム
あるいは硫酸マグネシウム
- 性味：鹹、苦、寒
- 帰経：胃、大腸、三焦



溜まっているのは便だけじゃないガスも溜まっている
承気する

厚朴一枳実チームの登場

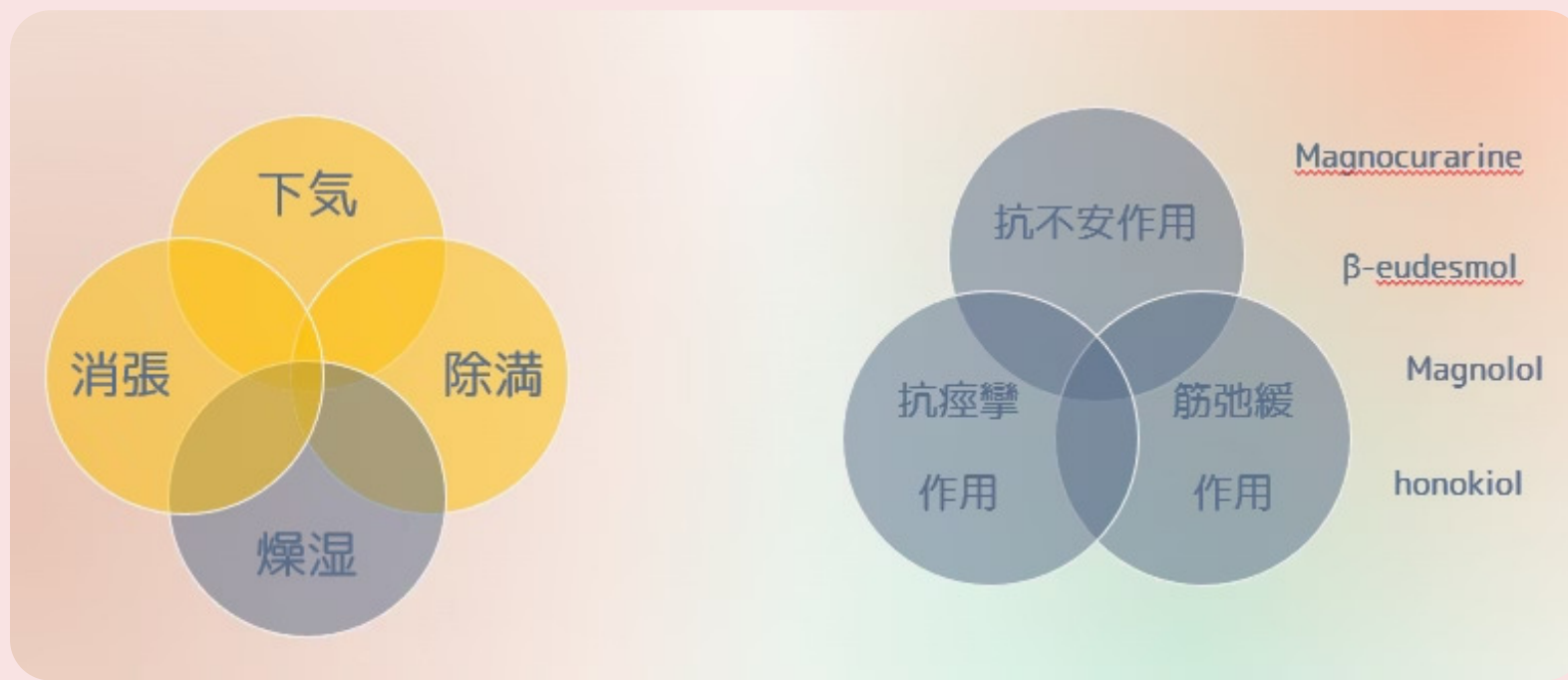
厚朴

- 基原：モクレン科のホオノキの樹皮
- 性味：苦、辛、温
- かむと芳香強く、舌のしびれ感がある
- 帰経：脾、胃、肺、大腸
- 薬能：行気化湿、燥湿化痰
- 下気降逆、下気除満



厚朴の薬能

薬理



枳実

- 基原：ミカン科ダイダイの幼果
- 性味：
- 帰経：脾、胃、大腸
- 薬能：破気消積、化痰消痞



枳実薬理

胃腸運動調整作用

水製エキス

抗アレルギー作用

水製エキス, ナリンギン(naringin), ネオヘスペリジン(neohesperidin)

血管血流増加作用

水製エキス, シネフリン(synephrine)

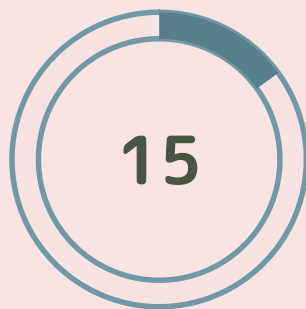
子宮筋収縮作用

水製エキス

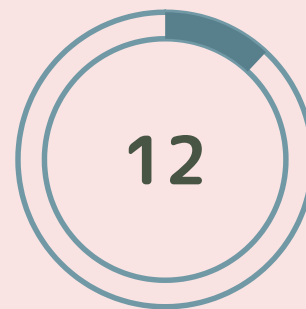
四味一体の大承気湯の完成



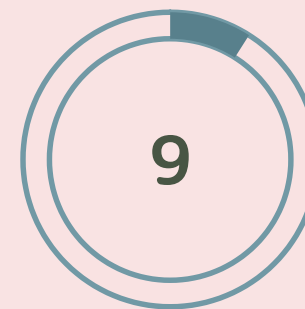
大黃 12g



厚朴 15g



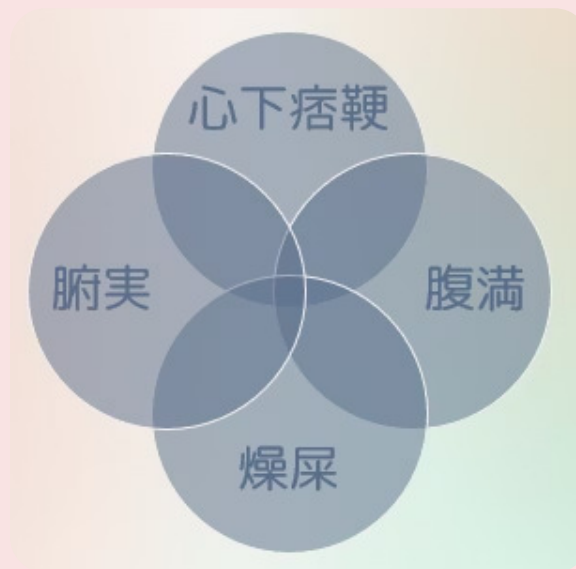
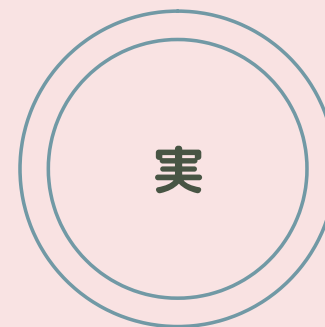
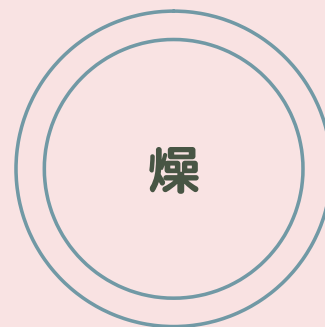
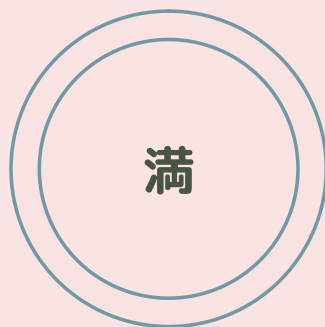
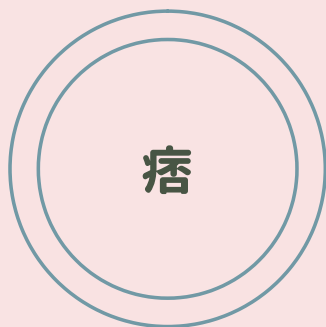
枳実 12g



芒硝 9g

大承気湯：大黃四兩・厚朴半斤(五兩)・枳実五枚・芒硝三合

大承気湯は





○大承気湯1

図の如く、腹十分に満ちて
此れを按ずるに堅し
即ち堅満なり
所謂「傷寒疫痢」の類に
この証多し
このとき大劑にして
急速にこれを攻むるときは
臭穢（しゅうあい）の毒
下りつきて後治すべきなり



○大承気湯2(慢性期)

図の如くあえて腹堅満なるにてもなく

腹の中央に長く堅きものあり

之れを按ずるに敢えて痛まず

之れ即ち堅塊なり

或いは身体羸瘦して堅塊あるものもあり

世に所謂、中風脹満、或いは労瘵等に

この証多し

謹んで薬品を改め、数百劑をもって攻むること

或いは半年一年より二三年に及ぶものあり

凡そこの証、若しくは燥屎あるものなり

燥屎あるものは、臍下必ず磊呵（ぐらぐら）として

宛も衆石を包みて上より按ずるが如し

肌膚枯燥してばさばさとしたるものなり。

或いは、ときどき下痢臭穢、

或いは、結糞兔屎の如きものをくだす





●大承気湯

図のごとく、心下硬く実満して
もしくは心下高く起こりて
塊（つちくれ）に似たり
腹一面に張して之を按すに腹にこたえ
実して痛み、心下張り痛み
もしくは、腹痛之を按すにいよいよ痛み
臍上の動悸、水分の辺にありて
これを按すにまた実して力あり

大承気湯図



(図2) ●大承気湯

図の如く

右の小腹に石を囊に入れたる如き塊物ありて
指頭に応ずるものは燥屎なり

ただし燥屎は腹証にあらわるるを必ずとせず
その小腹にあらわるるものは

燥屎腸にあるものなり

若し、胃中の燥屎は指頭に探り弁ずべからず
外証において、これを察すべし

或いは、腹腸満するに至らずといえども心下より臍上までは
之れを按ずれば必ず実して力ありこれを大承気湯の腹証とす

其二
図



1

もう少し早く下してもよいのではないか

便がカラカラに
乾いてしまう前に

2

そうすれば早く熱がさまるし、
脱水にならないですむ輸液はないのだから

3

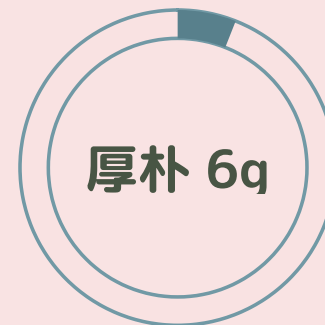
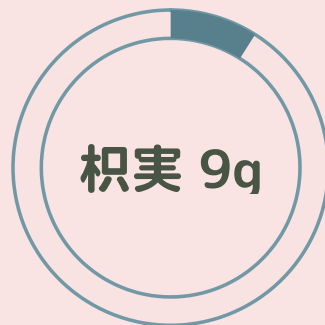
乾いた便がまだできあがらないうちに下そう

4

芒硝を抜いてみよう

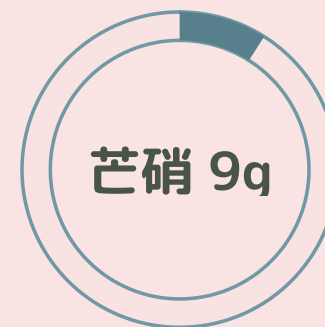
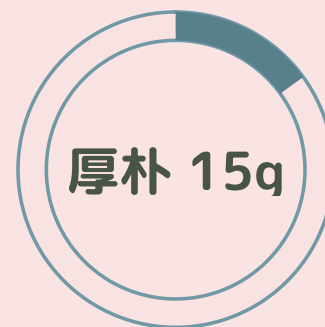
小承気湯の完成

小承気湯： 大黄四兩・厚朴二兩・枳実三枚



大承気湯

大承気湯： 大黄四兩・厚朴半斤（四兩）・枳実五枚・芒硝三合



大承気湯と小承気湯

燥屎があるとガスも増える

- その違いは燥屎があるかどうか。
- 高熱が続き、汗が出て、脱水状態になると、便の水分もなくなり、便が硬くなり、燥屎となり、腸管ガスも増えて腹部が膨満する。
- まだ、便の水分がある程度保たれているとき、大黄、厚朴、枳実の小承気湯を用いる。小承気湯を与えて腹部ガスの排出（おなら、転矢気）があれば、乾いた便（燥屎）がある証拠となるので小承気湯に硫酸マグネシウム（芒硝）を加えた大承気湯の適応となる。硫酸マグネシウムは腸管内の水分を増やすので潤腸通便の作用が期待できる

1

便もつまるがガスでつまるのが困る
もう胸まで苦しい

2

厚朴、枳実を増やしてみる

3

厚朴三物湯の完成

厚朴三物湯：大黄四両・厚朴八両・枳実五枚

小承気湯： 大黄四両・厚朴二両・枳実三枚



○厚朴三物湯

図の如く

臍の底、臍のほとり、

亀の甲の如く、かたきものありて

之れを按ずるに胸にこたえ、

嘔気を覚ゆるもの

この症の目当てたり

また曰く

胸満結実、あるいは痛閉のもの

また曰く

頭痛百薬をもって治せざるもの数効を得、口授ありて存す

或いは曰く

腹満、心下痛んで大便通ぜざるもの

また曰く

心下満痛、水を吐き出すもの



1

いやいや胸に水がたまっているから燥湿作用もある厚朴を
もう少し一尺の長さ分くらいいれよう
大黄ももう少し増やそう

2

尺てのは長さだよ重さは？



3

じゃあ2両増やして10両で

4

厚朴大黄湯の完成

- 厚朴大黄湯：大黄六両・厚朴一尺（十両）・枳実四枚
- 厚朴三物湯：大黄四両・厚朴八両・枳実五枚
- 小承気湯： 大黄四両・厚朴二両・枳実三枚



●厚朴大黃湯

図の如く

胸満して心下に支飲あり

結実して大便硬く

或いは秘閉して

時に心下痛み

或いは水を吐くもの

厚朴大黃湯の証とす



承気湯の分量

- 調胃承気湯：大黄四両・芒硝半斤・甘草二両
- 小承気湯： 大黄四両・厚朴二両・枳実三枚
- 大承気湯： 大黄四両・厚朴半斤（5両）・枳実五枚・芒硝三合
- 厚朴三物湯：大黄四両・厚朴八両・枳実五枚
- 厚朴大黄湯：大黄六両・厚朴一尺（10両）・枳実四枚

エキス剤の分量

- 大黄甘草湯：大黄 4，甘草 2
- 腸胃承気湯：大黄 2，甘草 1，芒硝 0.5
- 大承気湯：大黄 2，厚朴 5，枳実 3，芒硝 1.3
- 麻子仁丸：大黄 4，厚朴 2，枳実 2，芍薬 2，麻子仁 5，杏仁 2

1

もう十日も熱でてるけど飯は普通に食えるんだ
ただ、動悸がしてのぼせる感じでむかつくんだ

2

おいおい また脈が浮いてはやいよ
こりゃあ表証やし脈促胸満の桂枝加芍薬湯じゃないか

3

わかったじゃあそれ入れよう

4

厚朴七物湯の完成

厚朴大黄湯合桂枝去芍薬湯

大黄3両、厚朴半斤、枳実5枚、桂枝2両、甘草3両、生姜5両、大棗10枚

嘔の者は半夏5合を加える。下痢の者は大黄を去る。寒多き者は生姜を増やす。

『金匱要略 腹満寒疝宿食病脈証治第10』

●厚朴七物湯

図の如く

腹一面に張り満ちて大便硬く
発熱、脈浮なるものを
厚朴七物湯の証とす。

この方

厚朴大黄湯と桂枝去芍薬湯の合方とす
故に表裏を兼ねるの治あり
此の方夏月の下痢、腹張り、痛み、
裏急後重して発熱する者に用いて効あり
或いは疝気にて腹痛甚だしく
腹満する者を治す
これは生姜の分量多きをもって
寒を散らすの意あり
厚朴半夏生姜人参甘草湯は
胸腹脹満、痰飲ある者を治す



さあ次の処方は？

1

いやあ何の鳥かわかんねえんだけど

五、六羽網にかかりやがってよダチと一緒にたらふく食ったんだ

けどそれから腹が張って苦しくて吐き気がするわ、ゲップは出るわ便は出ないわおまけに体中にじんましんが出てるんだ

2

よく焼いたのか

いやあ、炭が弱くてさ腹減ってるから、赤いうちからガツガツ食っちまったんだよ

3

金匱要略読みな

金匱要略 禽獸魚虫禁忌並治第二十四

- 鳥、獸、魚、虫などを食べての中毒ならびに治療法
- 鱸（なます）これを食して、心胸の間に在って化せず、吐すれどもまた出ざるは、速やかに下して之れを除け。久しければ癥病をなす。
- 暴食による蕁麻疹に用いる
- 「肉や魚を食べて後、胃部停滯感、嘔気、げっぷなどあり、便秘の傾向あり、時に皮膚頑痒し発斑し、発疹がみられるもの、魚肉の中毒及びそれによるじんましん」

食あたりで便が出ないのは最悪だよ
大黄、朴硝でしっかり下すのが大事だよ
吐き気とゲップも下だせば治るんだけど
理気化痰のみかんの皮も入れよう

○橘皮大黃朴硝湯

橘皮、大黃、朴硝

図の如く、心胸の間
宿食あって結するもの
心胸の間、之れを按じて
凸にして堅く
按じて病者痛みを覚ゆるは
これ旧毒あるを以てなり
此の方の以て完く治すこと
余薬の及ぶべからざるなり



1

とにかく口いやしいのは災いのもとだよ

胃も弱ってんだから全部ほりこんでつくっとくよ普段から腹がはったらこれのみな

2

分量を加減してオールインワン

3

三一承気湯（調中湯）

『宣明論：劉完素(1120-1200)』

- 大黃、芒硝、枳実、厚朴各半両、甘草1両
- 私が大承気湯を改良して作った調中湯は生姜、大棗を加えて煎服する。（張子和(1156-1228)）
- 調中湯は中満による痞気にくわえて便秘がみられる病証を治療する薬である。
- 下すことで体内をきれいにすれば、気は通り、気分もよくなり、食欲も回復する。

4

食べ過ぎは百病のもと

わかったか こんどやったらまたしっかり下してやるからな

5

いや厠通いはもう勘弁

まとめ

- 傷寒で悪寒発熱があって汗がでてでも治らないまま数日経ち、発熱が続く場合、熱が裏である腸管まで及び、便の水分が奪われて、燥屎という乾燥した大便が溜まって便秘になる病態があり、この場合、腹部に乾燥した便とガスがたまり、腹が張って痛むという病証が現れる。
- このような時期を陽明病といい、大承気湯を用いて下さなければ、熱がますますこもって、脱水状態になり、うわごとをいうような危篤の状態になる。
- 今回は大承気湯を中心に、その加減法の腹証について学んだ。
- その中で、大黄、芒硝、厚朴、枳実、甘草の薬能や薬理を知ることが、処方の使い分けにとって重要になる。輸液も抗生物質もなかった時代に、身体からの信号を受けとって、治癒反応が健やかに働いていくような治療の試みは、大いに参考にしていけるべきだと考える。